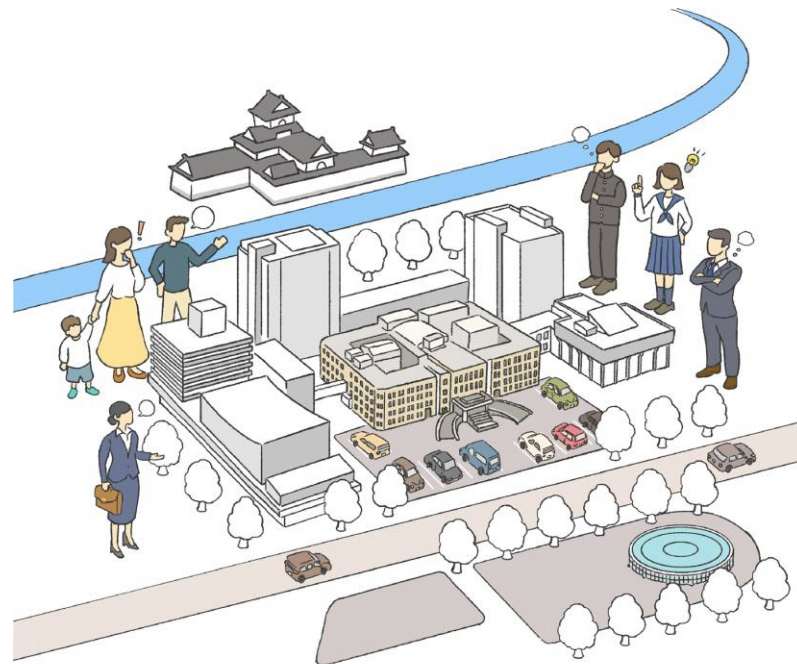


県庁周辺エリア コンセプトブック (詳細版)



令和7年3月

富山県庁周辺エリアマネジメント懇話会 ・ 富山県

目次

I. 背景	P2
II. ありたい姿	P5
III. 意見収集と方向性の整理	P8
IV. エリアコンセプト	P9
V. アクションプラン骨子	P10
VI. 未来に向けて	P12
付表	P15

人口減少社会を見据えた持続可能なコンパクトシティの形成を目指し、先進的なまちづくりが進められてきた富山のまちの中心に、歴史的意義を持ち、水辺や公園といったアメニティ空間を備えた「県庁周辺エリア（次ページ参照）」があります。

このエリアは、富山駅とまちなかの商店街地区の中間に位置し、県庁や市役所などの公共施設が集まる重要な場所です。公共交通が整備され、歴史資源や水と緑の空間に恵まれているにもかかわらず、十分に活かされておらず、歩行者の流れが少なく賑わいに欠ける状況が続いていました。

そのため、富山駅からまちなかの商店街地区までを歩きやすく（ウォーカブル）憩いと愉しみのあふれる空間に生まれ変わらせることが求められています。令和5年10月には、地元経済界の呼びかけで「富山県庁周辺エリアマネジメント懇話会」が設置され、このエリアの価値や魅力を高める機運が高まってきました。

県でも、令和5年度、基礎調査やヒアリングを行い、県・富山市の若手職員や富山大学の学生によるワークショップを通じて、このエリアの現状と課題、そして「3つのありたい姿」を整理しました。あわせて、新たに設置した庁内プロジェクトチームにより、県庁周辺県有地等の活用の方向性についての検討を開始しました。

これまでの成果を踏まえ、県庁周辺県有地等のまちの活性化に資する未来の有効活用を目指し、令和6年度から令和7年度にかけて基本構想を策定します。本稿は、検討中の基本構想の基礎となる部分を分かりやすく示し、県民や県内外の民間事業者の皆さまに関心を持っていただくための「エリアコンセプトブック」です。

対象エリア

1. 背景

富山駅周辺

- ◆ 北陸新幹線開通（2015年）や路面電車南北接続開業（2020年）を契機として、商業投資が活発に行われている
- ◆ 日常的に賑わいイベント活動が行われている



出所：とやま観光ナビ

県庁周辺エリア

- ◆ 富山駅と商店街地区の間に位置する
- ◆ 県庁や市役所が建ち並ぶ官庁街
- ◆ 県庁前公園や富山城址公園、松川などの緑や水辺の環境が充実している



商店街地区

- ◆ 古くからの商業エリアであり再開発事業による新陳代謝が積極的に行われている
- ◆ 飲食や学生シェアハウス、インキュベーションオフィスなど、若者文化が育まれている



出所：HACHI HP

● 県庁周辺エリア ● 県庁周辺エリアの未来を考える際に念頭に置くエリア



県がまちづくりに取り組む意義

I. 背景



県庁周辺に県が有する主なアセット

これまでも県では、県庁周辺エリアを適切に維持管理してきました。しかし一方で、長い間、ハード・ソフト両面における積極的な投資が限定的でした。

県の将来を見据えた時、このエリアの魅力を高めることは、全県的かつ中長期的な価値の創出につながります。このエリア最大の地主＝「ランドオーナー」である県が基本構想を策定する必要があると考えました。

県の顔とも言えるこのエリアのポテンシャルを活かし、産学官民の連携したまちづくりを展開することは、多様な人・企業・資金・情報を引き寄せ、その価値を県全域に波及させることにつながります。

これからは現在の環境を維持するだけでなく、ここに人が集まる魅力的な場となるよう、県として主体的に関わり、変化を生み出していきます。

県庁周辺エリアとまちづくりの歴史

II. ありたい姿

歴史を振り返り、このエリアの持つ特性が浮かび上がりました。

原点かつ
中心性

富山城の立地により江戸期の城下町が形成され、明治以降に廃川地において近代的なまちが新たに形成されるなど、ここは富山のまちの原点であり、その後の官庁街やオフィス街の整備を含め、常に都市の中心性を持ち、まちに風格をもたらしてきました。

交流

旧北陸道がまちを通り、名所であった舟橋や城下町の形成など、まちの内外の人々が交差し、情報が集まり、交流が生まれる場所でした。

水辺

旧神通川の地理的特性を活かした富山城の立地、舟橋の整備、廃川地の埋め立てと松川の形成など、常に水辺を身近に感じ、憩いの空間としての活用が積極的に行われてきました。

変革

時代の変遷とともに、城下町の整備や廃川地の埋め立て、戦後の復興事業など、富山の先人たちが大規模な土木工事を伴いながら都市構造を変革してきた都市計画の濃厚な歴史があります。特に県庁が埋立地に新築されたことは、同地の市街化に大きな影響を及ぼしました。



出所：六十余州名所図会・越中富山船橋 文化遺産オンライン



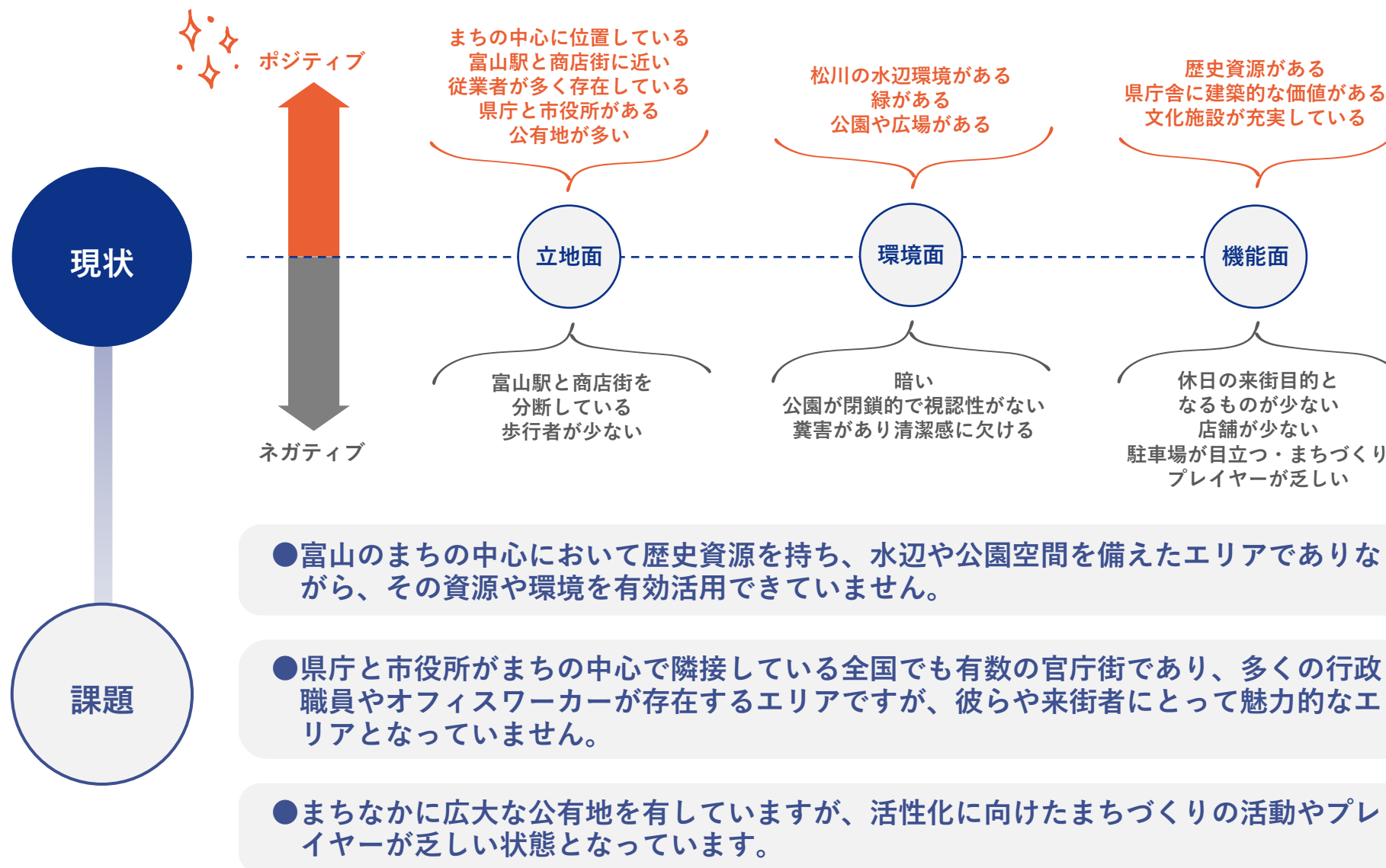
出所：富山都市計画事業概要（富山市郷土博物館所蔵）



出所：富山県庁舎（富山市郷土博物館所蔵）

県庁周辺エリアの現状と課題

II. ありたい姿



3つのありたい姿

II. ありたい姿

歴史からの示唆や現状と課題の分析、令和5年度に実施した県・富山市の若手職員や大学生を対象としたワークショップにおける議論をもとに、県庁周辺エリアの「3つのありたい姿」を描きました。

01

憩いとゆしみ
あなたの幸せ



歴史・水辺・緑を生かした憩いとゆしみの空間を形成する、訪れる人にとって「ウェルビーイング」なエリア

02

まちにつながりと
一体感を醸成する



周辺街区との連続性・回遊性を高め、まち全体ににぎわいの好循環をもたらすエリア

03

県全域に
付加価値を届ける

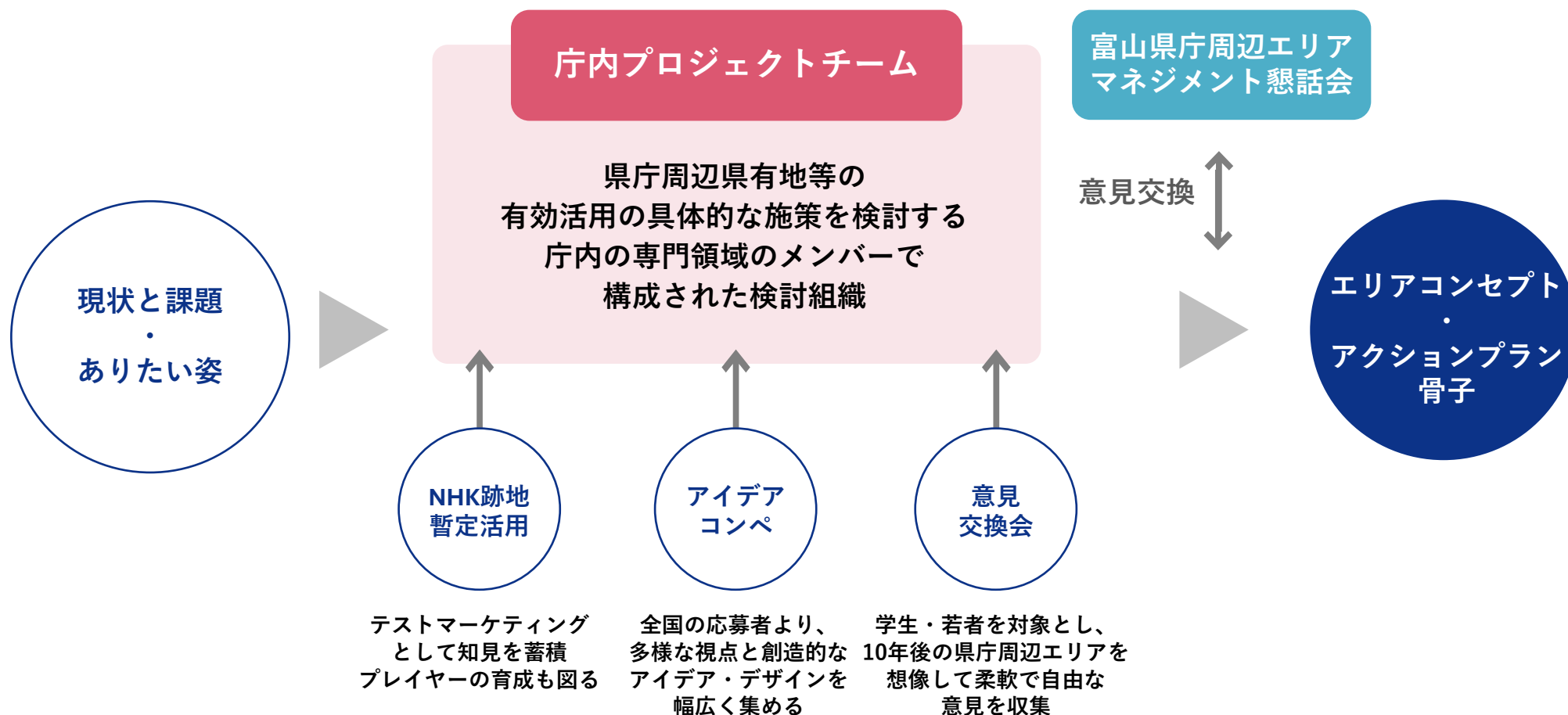


県内外の多様な人材が集まり産学官民連携が行われ、富山のまちの核として求心力と発信力を生むエリア

検討フロー

Ⅲ. 意見収集と方向性の整理

現状と課題、ありたい姿を踏まえて、庁内プロジェクトチームを中心に、エリアコンセプトやアクションプラン骨子を抽出しました。



エリアコンセプト

IV. エリアコンセプト

いつでも、歩くたびに…を感じる。

憩いとゆしみを

365日、訪れる人々が憩いとゆしみを
感じられる、多様な居場所になる

水辺を

松川をより親しみのある水辺空間として、
エリアの価値を高める

つながりを

歩いて楽しめる空間として
賑わいの連続性と回遊性を高める

緑を

緑あふれるまちなかのオープンスペースを
生み出し、居心地の良い空間とする

共創を

地域課題解決を共に目指す共創コミュニティを
築き上げていく

集まりを

県内外から人・企業・資金・情報が
集まり交流が生まれる

広がり

生み出された付加価値を県全域に波及させて、
日本各地や世界へ発信していく

アクションプラン骨子

V. アクションプラン骨子

エリアコンセプトに基づき、空間・アセットに対する施策として、「5つのアクション」を設定しました。令和7年度に策定する基本構想において具体化を図ります。

5つのアクション

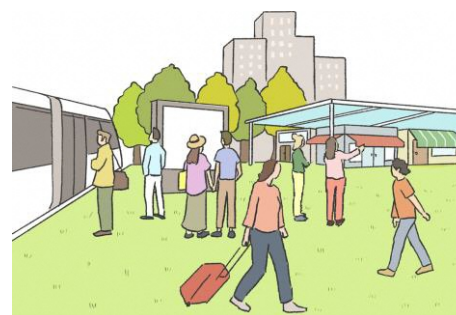
01 ウォーカブルで一体的な歩行者空間を生み出す

02 まちなかにおける緑のオープンスペースを創出する

03 松川べりを憩いの水辺空間として魅力を向上させる

04 歴史ある県庁舎本館をまちに開かれた賑わい拠点として複合的に活用する

05 富山駅～商店街地区との連続性・回遊性を高める



#緑とオープンスペース

#ウェルビーイング



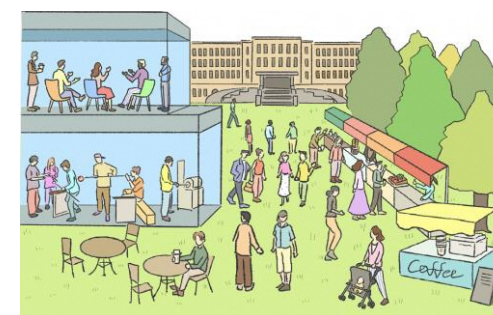
#松川

#ウォーカブル



#県庁舎本館

#賑わいと交流



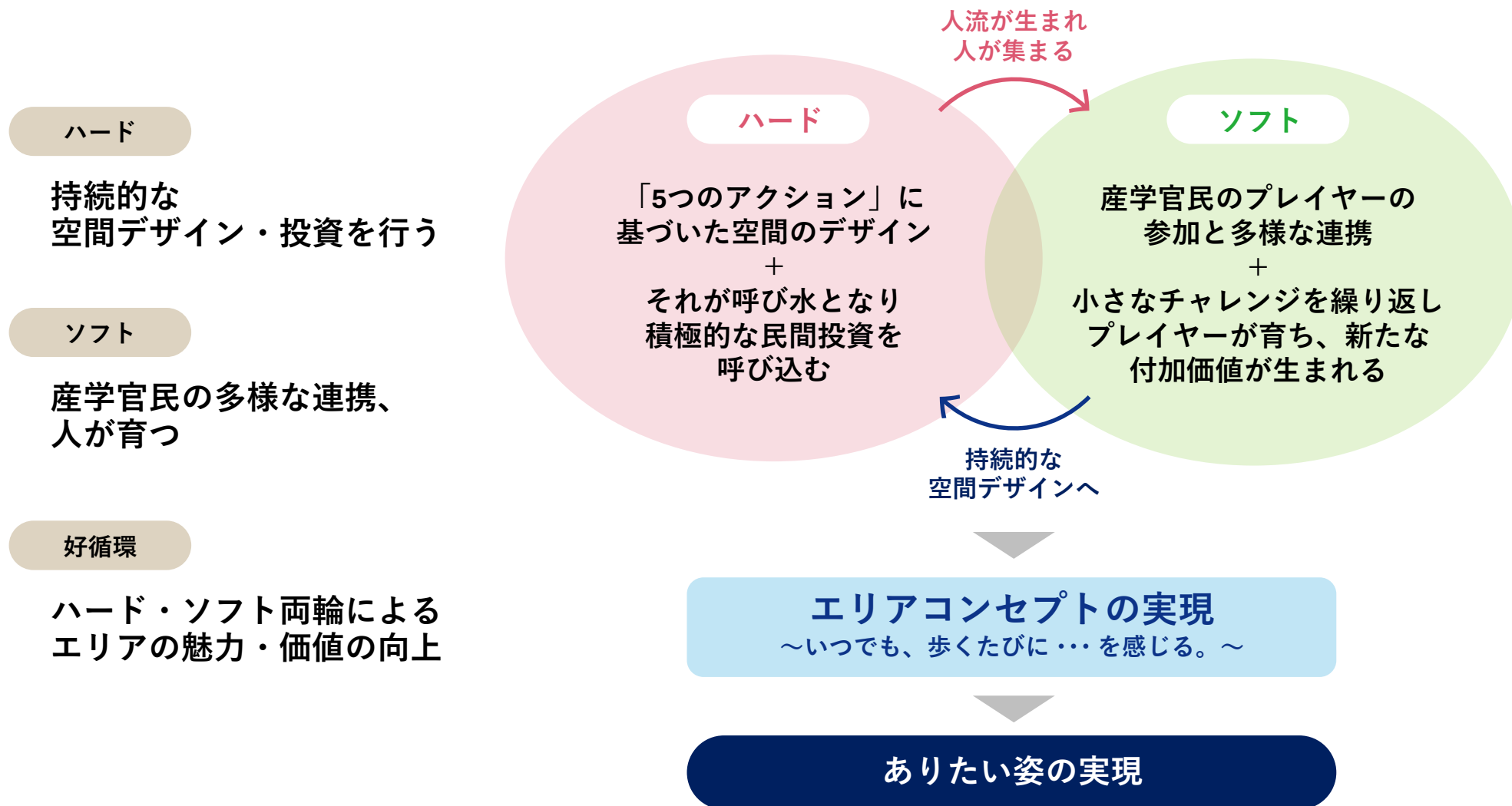
#共創

#エリアマネジメント

エリアマネジメントの視点

V. アクションプラン骨子

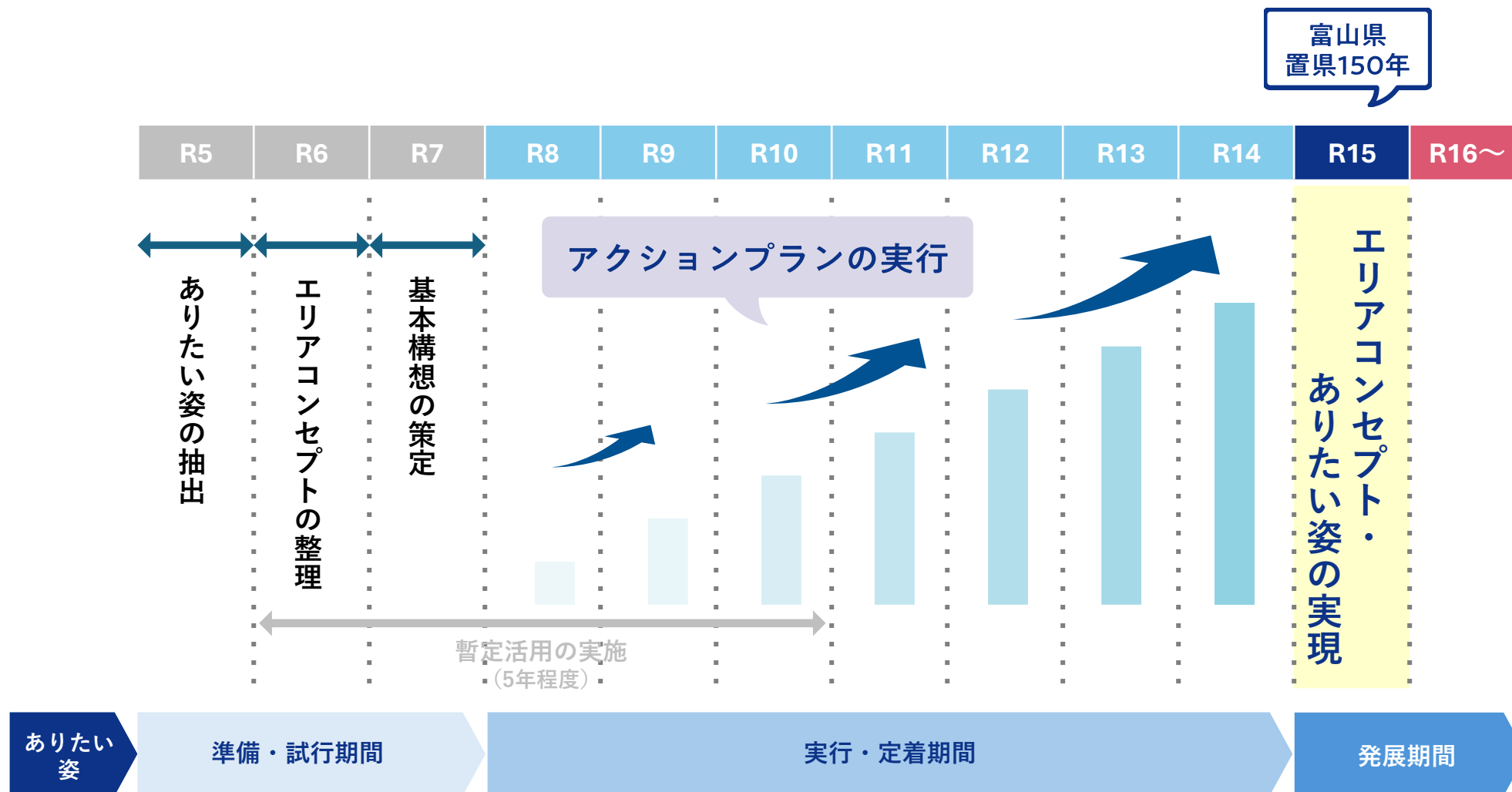
ハード・ソフト両輪での持続的な取り組みにより好循環を生み出し、エリアの魅力と価値を高めるエリアマネジメントを行います。



ロードマップ

VI. 未来に向けて

富山県置県150年となる令和15年度を見据えて、エリアコンセプトやありたい姿の実現を目指します。



今後の進め方

VI. 未来に向けて

富山市など関係者との対話を重ねながら、エリアコンセプトやありたい姿の実現に向けた具体策を策定し、実行に移します。

まちづくりプレイヤーの発掘・育成および民間投資の呼び込みを進め、すべての主体が実行者となるよう伴走支援を行います。

取り組み内容	
基本構想の策定	- アクションプランの令和8年度以降の実行に向け、ステークホルダーとの協議を行い、具体的な施策への落とし込みを行う。 - 住民やプレイヤーとともにまちのあり方を考え、外部有識者を交えた検討会を実施し、基本構想を策定する。
エリアマネジメントの準備・試行	産学官民の各主体と連携し、エリアに関わるコミュニケーションを図ることで、将来的なエリアマネジメントの実施に向けた仕組み・体制・役割の検討、および準備・試行に取り組む。
プレイヤーの発掘・育成	エリアの持続的な発展に向けて、暫定活用や実証事業等を通してまちづくりを推進するプレイヤーの発掘・育成を行い、コミュニティの醸成を図る。
民間との対話、投資の呼び込み	エリアコンセプトブックを活用し、民間事業者との対話を重ねてエリアへの関心を高め、民間投資の呼び込みを目指す。
県庁舎のあり方検討	県庁舎のあり方について、多角的な視点から検討を行い、アクションプランとの整合性を確保する。

おわりに

VI. 未来に向けて

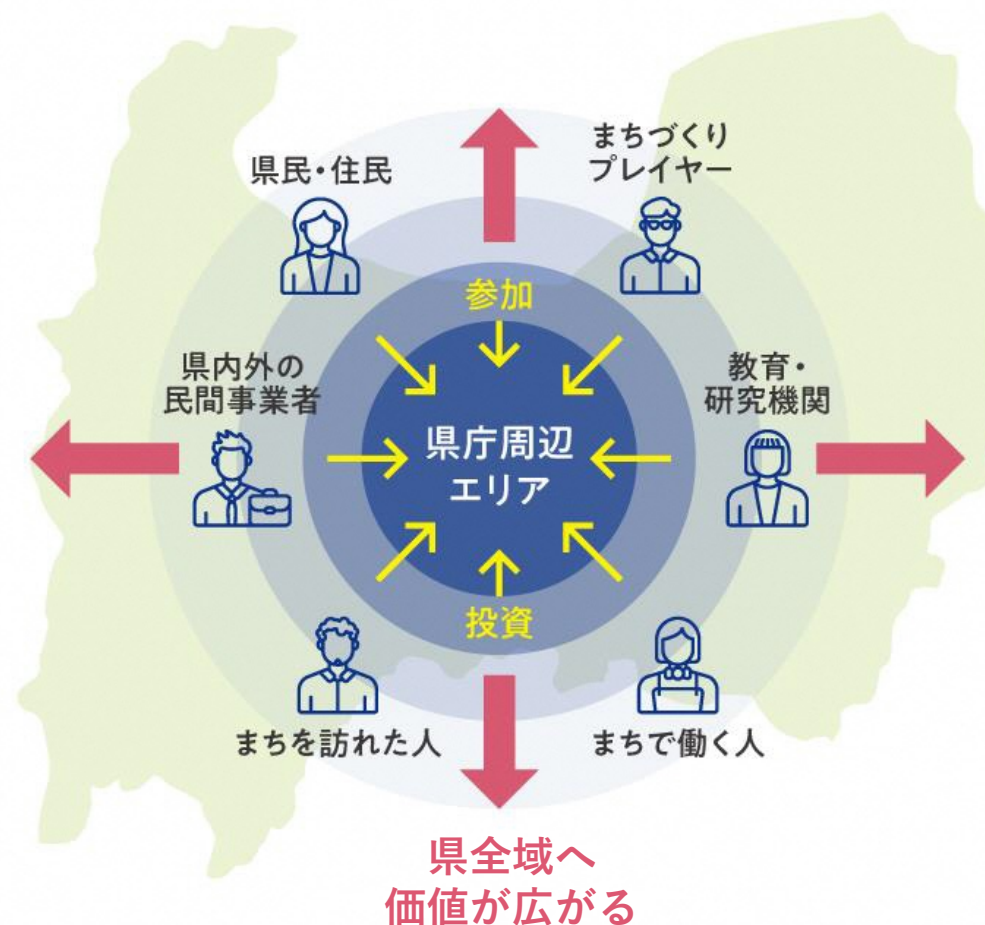
あなたとともに、未来を創り上げていく

未来に向けて、
県庁周辺をもっと素敵な場所にするためには、
皆さんの力が必要です！

行政だけに任せるのではなく、
富山県に関わるすべての主体が実行者となり、
この場所ならではの多様なプロジェクトを
共に創り出しましょう。

ここで生まれる価値を県全体に広げ、
一人ひとりのウェルビーイングを実現し、
新たな社会経済システムを構築してまいります。

さあ、一緒に。あなたが輝く未来へ！



付表

県庁周辺エリアとまちづくりの歴史

付表

江戸期

明治～昭和戦前期

昭和戦後期

平成～現在

行政と賑わいの中心地

天文12年に築城された富山城は、まちなかで大きく蛇行する神通川により造られた自然堤防上に整備された。神通川は天然の外堀として活用され、江戸期に64艘の船を鎖で繋いで架けられた舟橋は、立山連峰の景勝と合わせて全国に知れ渡る名所であった。



出所：富山市街実測図（明治26年）
（富山市郷土博物館所蔵）

近代都市の形成

明治期に入り、水害を防ぐために神通川の直線の分水路を造る馳越線工事が行われた。旧川筋（現松川）は廃川地として埋め立てられ、県庁舎・市庁舎・電気ビル・神通中学校などが立地し、都市の中心に新しくまちが誕生した。



出所：昭和初期の神通川廃川地
（富山市郷土博物館所蔵）

先駆けた復興都市計画

昭和20年8月1日深夜の富山大空襲により、富山の市街地の99.5%が焼失した。戦後、戦災復興都市計画が策定され、現在の城址大通りと平和通りを中心街路と位置付け、富山駅周辺と商店街地区の二大開発拠点構想が掲げられた。



出所：富山市HP
未来に語り継ぐ富山大空襲の記憶

まちづくりの実践

中心市街地の空洞化が大きな課題となる中、富山市は全国に先駆けてコンパクトシティ政策を推し進め、公共交通を軸とした歩きたくなるまちを目指してきた。富山県は富岩運河環水公園や松川べりなどの水辺空間を活かしたまちづくりを進めてきた。



出所：富山市HP 公共交通の活性化施策

R6年度：アイデアコンペ

付表

応募のあった64件の提案作品を分析し、特に重視されている観点として以下の8点が抽出されました。これにより、エリアコンセプトやアクションプラン骨子の検討に向けた示唆を得ることができました。

01 公園・広場としての一体化

NHK跡地や県庁前公園に留まらず、道路や駐車場を無くすまたは集約、再配置等を行うことにより、分断の無い一体的な空間を生み出す。



02 水辺・緑の創出

エリア全体を緑であふれた空間とする、噴水設備をリニューアルし、子どもが遊べる憩いの水辺空間として魅力向上させる。



03 南北の動線デザイン

富山駅と商店街地区の関係性を意識し、南北それぞれに対する動線やつなぎ方をデザインする、県庁前公園から本館を通り抜け、松川・城址公園へのスムーズな移動を可能とする。



04 駐車場の配置

歩行者空間を充実させるため、エリアに散在している駐車場を集約化、または立体駐車場/地下駐車場を整備。



05 松川沿いの空間の魅力化

松川沿いの道路だけでなく、県庁舎南側の空間との一体性を生み、歩きやすい空間を生む。松川沿いにテラスやデッキ、カフェ等の飲食施設など、滞在性の高い空間・機能を創出する。



06 県庁舎本館の利活用

コワーキングスペースやホテル、イベントスペースとしての貸出、壁面の演出。公園と一体的に修景し文化財としての価値を高める。



07 全天候型の空間づくり

デザイン性のある屋根を公園や広場の中に設けて、天候の悪い日や日差しの強い日でも過ごしやすいエリアとする。



08 賑わい機能

マルシェやカフェテラスなど、日常的に人が集まる仕掛け、多様なイベントを受け入れ、昼夜を問わず楽しみが生まれる場とする。

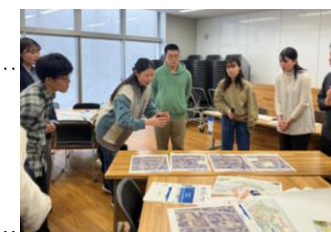


R6年度：意見交換会

付表

意見交換会では、若い世代による活発なコミュニケーションが図られ、
様々な意見・アイデアを得ることができました。

主な意見の傾向	具体的な意見・アイデア	
① 南北につなげる	- 富山駅～総曲輪まで歩きやすい動線を生み出す - 県庁舎本館の中を誰もが通り抜けることができるようにする	- 総曲輪まで続くアーケード - 県庁前公園と城址公園の2つの広場が分かれているのは勿体ないのでつなげたい
② 歩きたくなる 一体的なエリアデザイン	- エリア全体のコンセプトを統一したい - デザイン性のある公園 - 車道を無くす - 日当たりのよい空間とする - 歩行者ファーストの空間づくり	- 駐車場の集約 - 開放感のある空間 - 木を減らして芝生を増やす - 城址大通りを横断しやすくする
③ 天候に左右されずに過ごせる	- アーケードや地下道の整備 - 屋根のある空間 - 雨でも歩きたい	- 全天候型の遊び場 - 噴水周辺に屋根をかける - こどもが雨の日でも遊べる
④ 松川べりや水辺を楽しめる	- 松川沿いの歩道の拡幅 - 水辺空間と人が集まる空間を近づける - シームレスな水際	- 松川の橋を増やす - 松川沿いを歩行者専用道路化 - 噴水から松川まで水路等でつなげることで、水辺の動線を創出する
⑤ 県庁舎本館の開放	- 県庁舎本館の中を誰もが通り抜けることができるようにする - 歴史を感じられる建物として、多くの人が訪れやすい場所にする	- アート作品の展示 - 県の情報発信拠点 - 県職員の仕事の様子が見られる
⑥ 富山県やエリアのことを新しく知ることができる	- 県庁の取組をPRできる場所 - まちづくりに興味を持つことができる場所 - ポップアップストアがある	- 地元食材を楽しめる場所 - 富山らしく自然を活かす - 歴史・文化・産業等を体験できる
⑦ 楽しみがあり 多様な人が集まる	- スポーツ観戦のライブビューイングや映画鑑賞 - のんびりランチや運動を楽しめる - アート作品やキャラクターの銅像等をエリア内に点在 - オープンキッチン	- コワーキング - 本を読んだり、休憩できる場所、カフェスペース - 水路の手入れ等を通じた地域交流の場
⑧ こどもや若者にとっての魅力	- 噴水周りに子どもが遊べるスペースをつくる - 遊具を充実させる、遊び場をつくる	- 学生や社会人が参加できることでまちづくりを衰退させない - 若者がスポーツを楽しむ



方向性の整理

付表

庁内プロジェクトチームにおける議論をもとに、収集した意見を照合し、エリアコンセプトやアクションプラン骨子の検討の方向性を整理しました。

検討の方向性

現状の敷地区分に関わらず、エリアを一体化して歩きやすく滞在性の高い空間とするようなランドデザインが求められるのではないかな。

まちなかにおける貴重なグリーンインフラとして、緑あふれる憩いの広場や公園を生み出すことで、エリア及びその周辺の魅力・価値向上に資するのではないかな。

富山駅と商店街地区の中間に位置する立地の関係性から、当エリアが両地区をつなぐ役割を担い、動線や機能を配置していく必要があるのではないかな。

歴史的な文脈を持ち、当エリアの貴重な水辺空間を提供する松川について、ハード・ソフト両面の取り組みが求められるのではないかな。

登録有形文化財である県庁舎本館について、当エリアのランドマークとして、賑わいを創出する複合的な利活用を検討するべきではないかな。

アイデアコンペ

▶エリア全体の空間デザインの視点

- ① 公園・広場としての一体化
- ② 水辺・緑の創出
- ③ 南北の動線デザイン
- ④ 駐車場の配置

▶個別アセットの利活用の視点

- ⑤ 松川沿いの空間の魅力化
- ⑥ 県庁舎本館の利活用

▶機能としての魅力化の視点

- ⑦ 全天候型の空間づくり
- ⑧ 賑わい機能

意見交換会

① 南北につなげる

② 歩きたくなる
一体的なエリアデザイン

③ 天候に左右されずに過ごせる

④ 松川べりや水辺を楽しめる

⑤ 県庁舎本館の開放

⑥ 富山県やエリアのことを
新しく知ることができる

⑦ 楽しみがあり多様な人が集まる

⑧ こどもや若者にとっての魅力

富山県庁周辺エリアマネジメント懇話会

付表

目的：

県内全域のにぎわい創出にも資するよう、県都の玄関口である富山駅周辺地区と中心商業地区との中間に位置する県庁周辺エリアの魅力や価値を向上させ、県都の格を高めるため、10年後20年後のビジョンを取りまとめること。

開催実績：

3回開催（第1回：令和5年10月27日、第2回：令和6年5月9日、第3回：令和7年3月24日）

委員氏名	所属・役職
齋藤 滋	富山大学 学長
品川 祐一郎	富山商工会議所 副会頭
難波 悠	東洋大学大学院 教授
西村 幸夫	東京大学 名誉教授 國學院大學 観光まちづくり学部学部長
牧田 和樹	富山経済同友会 代表幹事【座長】
新田 八朗	富山県知事（特別委員）
藤井 裕久	富山市長（特別委員）